

三条別院のご案内

MONTHLY NEWSLETTER FROM
SANJO-BETSUIN 2026. 7

Tel 0256-33-0007 E-mail sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp HP <https://sanjobetsuin.or.jp>

三条別院に想う

八島 崇成 氏

(高田 12 組徳生寺住職 高田別院列座)

この日、私は二歳になる娘と一緒に三条別院の本堂にいました。

「五劫思惟之摂受～」

「ママだ」娘が言いました。

妻が新潟教区慶讃法要の習礼に来ていて、いい機会だと娘と一緒に来たのです。三条教区と高田教区が合併して三年。一つの集大成としての合同慶讃法要。実は複雑な気持ちがありました。私は高田別院の列座として約十年奉職しています。私にとって『高田の声明』は日本一です。誰がなんと言おうと、はじめて感動したのも高田の報恩講。だからこそ合併後も、三条、新井、高田のそれぞれの別院の伝統や誇りを「一緒にされたら困る」という気持ち、形を一つにすることへの割り切れなさが、私には確かにありました。

「如衆水入海一味～」

「ママだね」と聞き入っている私の顔を、娘が覗き込みました。

本堂を震わせる声明の響きを身に受けるうち、自分の中の何かはほどけていくのを感じました。親鸞聖人は濁った水も清らかな水も、無数の異なる川もすべて等しく同じ大海となり一味となると示されています。かつて蓮如上人の御遠忌テーマ『バラバラでいっしょ』の世界そのものでもあります。仏教はそれぞれの違いを否定しない。

一緒にされたら困ると背を向ける私の思いも、阿弥陀の願海においては、バラバラなままで等しく尊い「一味」のはたらきになっていく。そのことを、誰でもない私自身が、この場のお声明によって領かされていました。

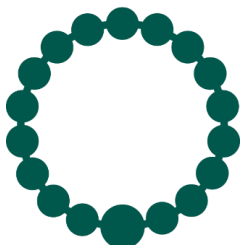
「これで良かったんだね」と私はふと娘に言いました。

これからの私たちの歩みは、どこが何かを譲るのではなく、共にお念仏という大海の中で一つの慶びを分かち合う道を進んでいくのでしょうか。複雑な思いを抱えたままの私がそのまま大きな海に包まれていく。本堂で一生懸命に声を合わせる母の姿を、じっと見つめる二歳の娘。三別院の声明が美しく響き合う当たり前の風景。この娘の澄んだ瞳の向こうには、とっくに新たな未来が始まっていたのだと、私は確かに感じていました。



○次回の「三条別院に想う」は、

齋藤 遼 氏 (第22組託明寺) よりご執筆いただきます。



【今月のトピック記事】
8月朝の人生講座の講師決定！
御正忌団参アンケート継続中！

▼(2面)



アンケートリンク

7月8月 ピックアップ

基本どなたでもお参りいただけます。
詳しくはホームページ及び案内チラシをご覧ください。
行事報告は基本はホームページで別院だよりでは不定期で行います。

▼庭講早朝清掃・晨朝参拝（庭講報告・お知らせも参照）

7月13日（月）早朝6時から8時、その後晨朝参拝
※毎朝の7時からの晨朝を1時間遅らせて勤めます。

▼定例法話

『両眼人』輪読会（別院列座と一緒に曾我量深・金子大榮往復書簡を読む）

7月13日（月）13時30分から15時

毎月13日闡如上人のご命日にあわせて定例法話会を開催しております。

8月、1月を除く年10回で開催しておりますが、2026年度は新たな試みとして5回（7月・9月・12月・2月・3月予定）を標記輪読会にあてたいと計画しております。10月・11月・4月・5月・6月の講師は、従来よりもテーマをはっきり定めてお話いただく予定で計画中です。

7月は輪読会をプレ開催ということで、輪読・座談の方法なども含めて実験的に始めてみたいと考えております。

テキスト：『両眼人』（春秋社）曾我量深と金子大榮の往復書簡集

1982年初版で新刊本は在庫切れのため、毎回該当箇所をコピーして用意します。1909（明治42）年から1943（昭和18）年までの書簡集で、若き日の曾我・金子両師の葛藤等も語られています。越後を代表する念仏者たちの真摯なやりとりから、真宗の教えを学んでいきたいと思っております。

▼御命日のつどい

大久保 州 氏（佐渡組廣永寺）

7月28日（火）10時から12時 御文三帖目第三通「川尻性光」

法話テーマー蓮如上人の『御文』に聞く

本堂にて日中法要、その後旧御堂で法話・座談会の場を開いております。
なお前日（27日）はお逮夜法要を13時30分よりお勤めしております。

◆会場 三条別院 本堂・旧御堂

◆お勤め（御命日 日中法要）

文類偈 行四句目下

念仏讃 洵五

和讃 回り口 次第六首

回向 願以此功德

◆今後の講師一覧

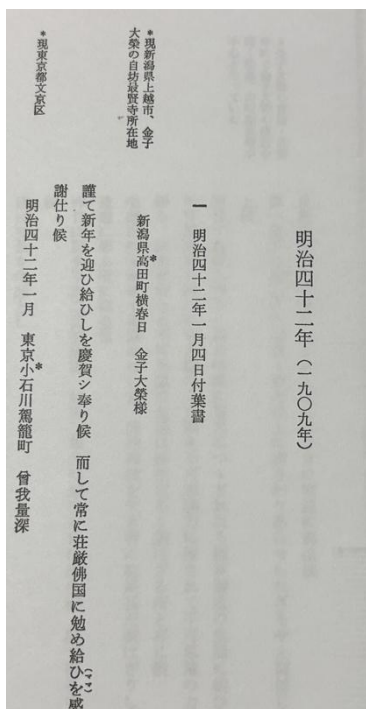
8月 桑田 正寛 氏（第10組西方寺）

9月 藤岡 正典 氏（佐渡組浄願寺）

10月 八田 裕治・摩矢子氏（第17組浄福寺）

11月 本多 智之 氏（第18組永傳寺）

12月 塚本 智秀 氏（第18組等運寺）





【3日目講師 雲井氏の著作】

▼朝の人生講座・夏の御文拝読

8月20日(木)～23日(日)(4日間)

6:00 晨朝 夏の御文拝読 6:30 人生講座(質疑応答含め約60分)

8月20日(木) 高尾 崇瑛氏(中越11組浄善寺)

8月21日(金) 大谷 尚子氏(第22組長徳寺)

8月22日(土) 雲井 一久氏(東京教区真照寺)

8月23日(日) 大藤 起磨氏(第10組勝願寺)

▲今年のテーマは「五蘊盛苦」(四苦八苦より)。

▲朝食として三条別院×Bakery & Sweets coronet(三条市本町)の特別コラボパンを配布します。(毎日先着50名。以降は普通のパンを配布)

▲三条市健康づくり課・食育推進室による「共食(きょうしょく)」事業の一環として、毎回希望者は旧御堂にて配布したパンを、講師と別院職員と一緒に座談をしながら食べています。



▼御正忌団体参拝の意見募集中!

参加者数の減少・燃料費等の高騰により本年の御正忌団参は中止が決定しておりますが、来年の11月21日から28日の本山御正忌報恩講の別院団体参拝の日程等見直しに向けて、アンケートを実施しております。どなたでもご回答いただけます(無記名可)。ご関心のある方は左記QRコードよりご回答いただけます。

▼三条別院公開講座(碧海寿公氏)の記録をYouTubeに公開中

6月14日に開催された、碧海寿公氏(武蔵野大学教授)による三条別院公開講座「「悟り」と現代—鈴木大拙に学ぶ」は多くの方にご参詣いただき、盛況でした。

講演の中では、現代の西洋で仏教が受け入れられているきっかけは、まさに鈴木大拙の活躍によるものであるという指摘から、『鈴木大拙—世界の禅を生んだ男』(ちくま新書)の内容に沿って鈴木大拙の事績をお話ししていただき、さらに後半では「科学技術が進歩する一方で混迷はますます深まっているように見えるこの現代に、仏教がどのような意義をもつのか?」ということをお話いただきました。

記録は三条別院YouTubeチャンネルからご視聴いただけます。

チャンネル登録もぜひお願いします!





その他の講座案内&随時募集中

○別院声明教室

7月は休会で、次回は8月から再開いたします。

○別院書道教室（東友会）

【毎月第2、第4水曜日 18時30分～20時】

講師 木原 光威 氏（新潟県書道協会理事）月謝 3,500 円（テキスト代含）

○有志の会庭講【毎月13日】

ご一緒に別院のお庭を整備しませんか？ 毎月13日10時から、午後は定例法話を聴聞します。1月と8月は休会です。

【活動報告】6月13日(土)、草刈り、除草剤散布、剪定、落ち葉掃きを行いました。5月に開催された春の奉仕研修後にも、何回か池の水を抜いて水の入れ替えをしてきたこともあり、今、中庭はとても美しい状態に保たれています。ぜひ、別院に寄られた際にはご覧ください。

【お知らせ】

次回の7月13日(月)の活動日は夏の暑さを避け、活動時間を早朝6時から8時までに変更させていただきます。9月(8月は休会)からは、通常通り10時から12時までの活動時間になります。よろしく願いいたします。

なお、今年の11月には、庭講主催の冬囲い研修を計画しています。詳細が決まり次第、お知らせをさせていただきます。

○有志の会花講

花講は別院の立花を、有志の会は別院行事に併せた奉仕活動や季節ごとの懇親会を行っております。

○別院奉仕研修について

【奉仕研修冥加金】

1人あたり半日（午前または午後）500円、1日1,000円

1泊2日は上記の冥加金に順じて半日500円で計算する。

【その他実費でいただくもの】

①講師謝礼 列座によるお内仏のお給仕・法話は研修冥加金に含まれる。

②シーツ等クリーニング代1,000円 ③食事代 ご要望等ご相談承ります。

○団体参拝及び諸殿拝観について

列座が諸殿拝観などを行います。日程等お気軽にご相談ください。

○フードバンクを継続募集中

—6月の別院フードドライブにご協力いただいた御寺院・御門徒—

15組善性寺

その他、匿名含め多くの方々にご協力いただき御礼申し上げます。次回引き取り予定日は7月24日（金）です。

編集後記

年度末の一大行事、公開講座が6月14日に開催された。今回は講師決定が難航に難航を重ね、5月に入ってようやく、ちょうど『鈴木大拙』（ちくま新書）を刊行したばかりの碧海先生がプロモーションを兼ねてお話ししてくれることが決定した。

だが開催まで1ヶ月しかない！と焦ったが、碧海先生は、ちくま新書から『入門近代仏教思想』、新潮選書から『考える親鸞』、角川選書から『科学化する仏教』、岩波新書から『仏像と日本人』……と若い研究者でありながら、たくさんの単著があり、ある意味では「有名人」なので、『仏教タイムス』・『三条新聞』・ケンオー・ドットコムも取り上げてくれて、結果として多くの参詣者が来てくれた。今後の別院の教化事業を考えるにあたり、我々は何を聞きたいのか、それに応えてくれる講師はだれなのか、公共性・客観性を備えているか、それを十分に考えることで、まだまだ別院に人が集まる余地を感じた。新年度がやってきます！（斎木）

